

2 型糖尿病患者における糖尿病腎症とサイトカインとの関係

○伊地知 大¹, 永井 やよい¹, 林原 厚¹, 山中 修一¹, 横手 晶徳¹, 横田 千津子¹
(¹城西大院薬臨床病態学講座)

【背景】近年、生活習慣の変化・乱れに伴い、生活習慣病の発症頻度が上昇傾向にある。その一つに 2 型糖尿病があり、糖尿病はあらゆる合併症の発症・進展のリスクを増大させる。糖尿病腎症発症の原因の一つにインターロイキン(IL)の関与が言われているが、その詳細は明らかにされていない。

【目的】2 型糖尿病患者において、糖尿病腎症(DN)病期とサイトカインの関係についての検討を行った。

【対象及び方法】埼玉県・武蔵台病院に通院中で、インフォームドコンセントが得られた 2 型糖尿病患者 75 名(男:女=32:43)を対象に、血中 Cre、HbA_{1c}、TC、TG、HDL-C、LDL-C、RLP-C、ApoA-I、ApoB、ApoE、ホモシステイン、BNP を測定した。更に、酵素免疫測定法や比濁法を用いて、血中 IL-1、IL-6、IL-12、IL-18、IL-23、TNF- α 、TGF- β 、及び、尿中トランスフェリン、アルブミン、クレアチンを測定した。結果は mean \pm SD で表し、student *t*-検定を用いて検討し、 $p < 0.05$ をもって有意とした。尚、この研究は、城西大学倫理委員会の承認を得て行った。

【結果】DN の病期とサイトカインには明らかな関連は認められなかった。一方、DN stage I と stage II には、脂質プロファイルに有意差は認められなかったが、DN stage I + II に比し、DN stage III では、TG・RLP-C・ApoB・ApoE が高かった。一方、DN stage III まででは、糸球体濾過率に明らかな低下は認められなかった。

【考察】2 型糖尿病患者において、糖尿病腎症の進行と脂質プロファイルには何らかの関係があると考えられる。糖尿病腎症病期とサイトカインの関係については、今後、症例数を増やして検討を続けたいと考える。